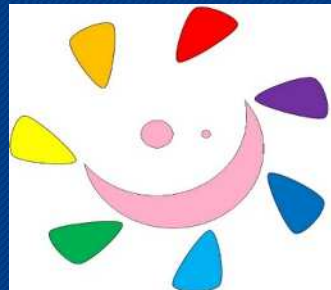




労働基準監督官

新潟労働局で働く労働基準監督官について



新潟労働局

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

新潟労働局の労働基準監督官について

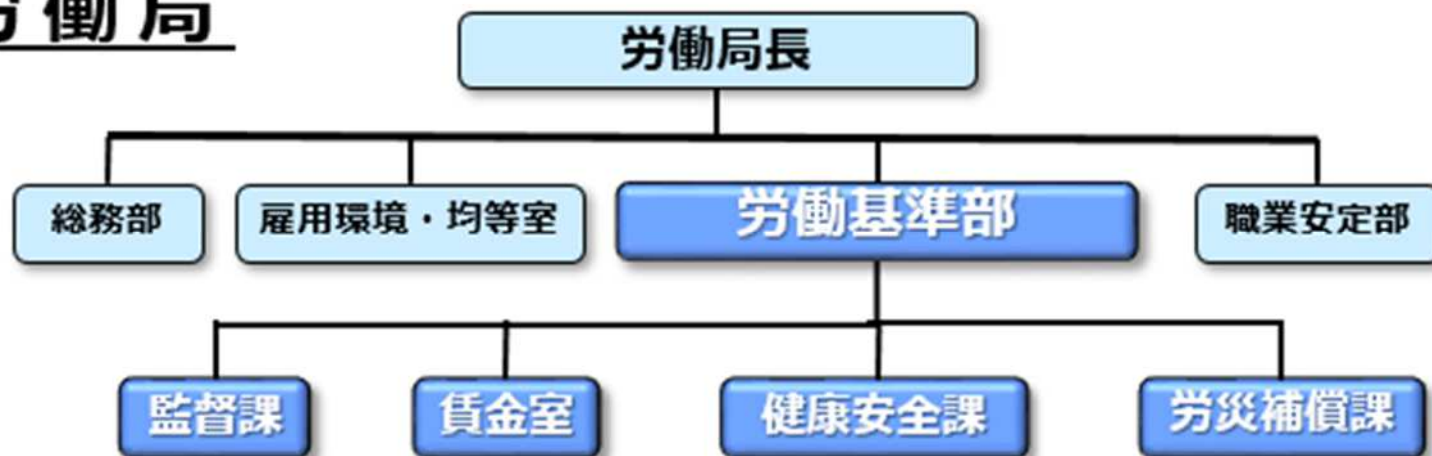
新潟労働局の労働基準監督官は、新潟県内にある約10万の事業場で働く約100万人の労働者のため、労働基準法や労働安全衛生法などの労働基準関係法令に基づいて、あらゆる職場に立ち入り、法令で定める基準を事業主に守らせることにより、労働条件の確保・向上、働く人の安全や健康の確保を図ることを任務とする厚生労働省の国家公務員（専門職）です。



(新潟労働局が入る新潟美咲合同庁舎第2号館)

新潟労働局の組織について

新潟労働局

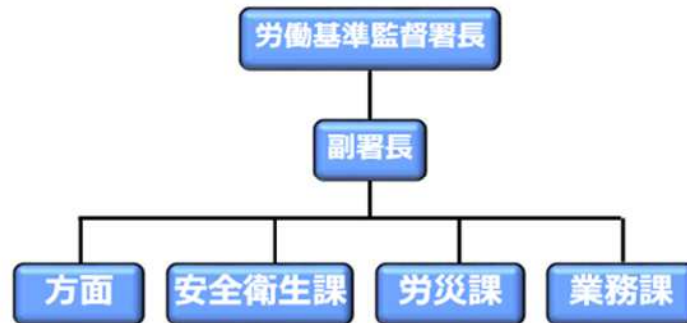


新潟労働局は、厚生労働省の地方組織で、新潟県全域を管轄としています。

また、労働基準部の下部組織として労働基準監督署が9か所、職業安定部の下部組織としてハローワークが16か所設置されています。新潟労働局に配属される労働基準監督官は約80名ですが、その多くが労働基準監督署に配置され、法定労働条件確保、職場の安全衛生環境の向上などのため活動しています。

新潟労働局の労働基準監督署について

方面制署 (新潟、長岡、上越)



3課制署 (三条、新発田)



2課制署 (新津、小出、十日町、佐渡)



新潟労働局の労働基準監督署は、新潟・長岡・上越・三条・新発田・新津・小出・十日町・佐渡にあります。

労働基準監督署には、方面制、3課制、2課制の種類があり、『監督業務』を行う【方面】【監督課】【監督・安衛課】、『安全衛生業務』を行う【安全衛生課】【監督・安衛課】、『労災業務』を行う【労災課】があります。

労働基準監督官の多くが【方面】【監督課】【監督・安衛課】に配属されています。

新潟労働局の労働基準監督官について

専門職としての組織的な対応と社会的影響の大きさ

新潟労働局は、全国47か所にある労働局の中では、中規模な労働局です。

新潟県は、日本海側のほぼ中心に位置し、海岸延長距離が南北約330kmという地理的特性に加え、食品・清酒、金属・機械、繊維など各地に多様な産業・技術が集積しています。

監督官の臨検監督する企業は、上越・中越・下越、離島を含め、新潟県内にある大企業から中小零細企業、また、あらゆる業種の企業となります。

新潟県内にある企業本社に対する監督指導の結果、全社的な改善が図られ、県内だけでなく他県にある支店等の多くの労働者の労働条件が改善されることがあります。

また、監督官から指導を受けた後、企業が自ら公表して、その指導、改善内容が報道されることもあります。

死亡・重大な労働災害、多数の労働者が解雇されるおそれがある事案、全国展開している企業が賃金を未払にしている事案など、社会的に注目される事案の対応もあります。

法制度の普及のため、企業担当者、事業者団体に向けた説明会も実施します。

専門的知識と技能を持つ監督官を配置している労働基準監督署及び新潟労働局では、組織を挙げて法制度の普及や様々な事案等の解決に向けて対応しています。

新潟労働局の研修について

新潟労働局では、厚生労働省が実施する中央研修のほか、スキルアップのため、新潟労働局独自の研修を行っています。

司法実務研修

検察庁検察官からの講義をはじめ、担当捜査官からの具体事例を基にした捜査の留意点など捜査実務・手法を学びます。

動力プレス機械研修

プレス機械を使用している工場に赴き、具体的な安全管理等について学びます。

港湾荷役研修

荷役作業が行われている港に赴き、港湾作業における安全管理等について学びます。



(港湾研修の様子)

林業研修

実際の林業現場の現場に赴き、作業を行っている方など安全対策等について学びます。



(林業研修の様子)

化学工業工場研修

石油化学コンビナート等に赴き、化学工業における安全衛生管理等について学びます。

新潟県での生活について

自然

- ・ 最長河川（信濃川） 【1位】
- ・ 自然公園面積 【2位】
- ・ 県土総面積 【5位】

人口・世帯・教育

- ・ 高等学校等進学率(99.5%) 【1位】
- ・ 地域子育て支援拠点事業実施箇所数
(人口10万人当たり) 【1位】
- ・ 1世帯当たりの人員 【4位】

くらし

- ・ 新幹線駅数 【1位】
- ・ 高速自動車道の開通延長 【2位】
- ・ 持ち家比率 【4位】

エネルギー

- ・ 原油の生産量 【1位】
- ・ 天然ガスの生産量 【1位】

観光

- ・ 海水浴場の数 【1位】
- ・ 温泉地数(宿泊施設有) 【3位】
- ・ 道の駅登録数 【4位】
- ・ スキー場等の数 【5位】

文化

- ・ 重要有形民俗文化財指定件数(国指定) 【1位】
- ・ 神社の数 【1位】
- ・ 世界文化遺産 佐渡の金山(2024年登録)

製造業

- ・ 米菓出荷額 【1位】
- ・ 水産練製品出荷額 【1位】
- ・ ビスケット類出荷額 【2位】

農林水産業

- ・ 米産出額 【1位】
- ・ チューリップ産出額 【1位】
- ・ えだまめ作付面積 【1位】

サービス業

- ・ 旅館、ホテル事業所数
(人口10万人当たり) 【5位】

出所：新潟県庁HP「新潟県あれこれ全国ベスト5～新潟県の日本一～（R6/4/30）」

新潟県は、海、山などの自然に恵まれ、海水浴、ウィンタースポーツなど、季節に応じた楽しみを体感することができます。
新潟労働局では、ワーク・ライフ・バランスを両立した生活を推進しています。

新潟労働局の勤務状況等について

新潟労働局では、組織全体で年次有給休暇取得促進などに取り組んでいます。
職員の個別の事情に応じた多様な働き方も選択できるようになっています。

・ 1ヶ月1日以上の有給休暇取得率

(新潟労働局)

令和5年度 87.6%

令和6年度 95.3%

令和7年度 **92.8%**

取得平均
年間17.8日

・ 超過勤務縮減

厚生労働省を挙げて、ワークライフ
バランスに取り組んでいます。

新潟労働局では、毎週水・金曜日が
定時退庁日となっています。

・ 育児休業の取得率 (新潟労働局)

令和7年度

男女とも **100%**

(令和2年度から100%です!)

・ 職員の男女比率

男性職員 65.6%

女性職員 34.4%

30歳未満割合
28.4%

30歳未満職員の男女比率

男性職員 56.1%

女性職員 **43.9%**

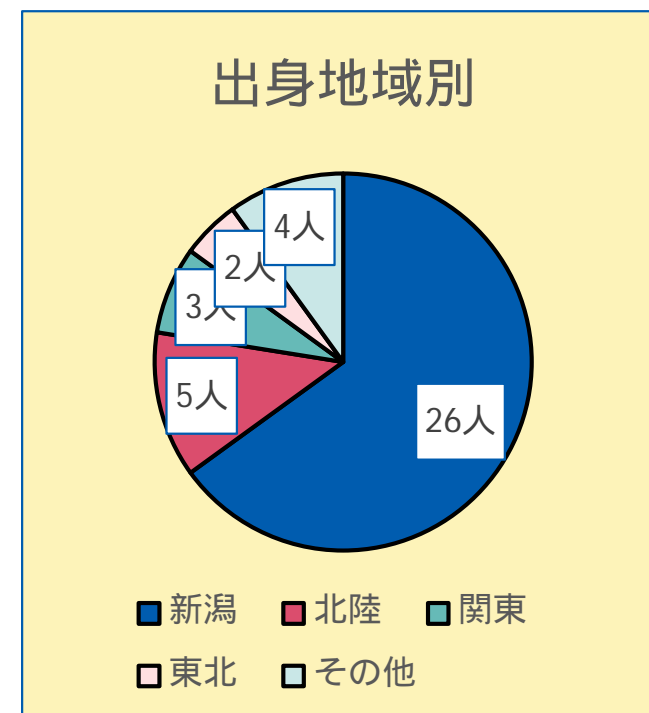
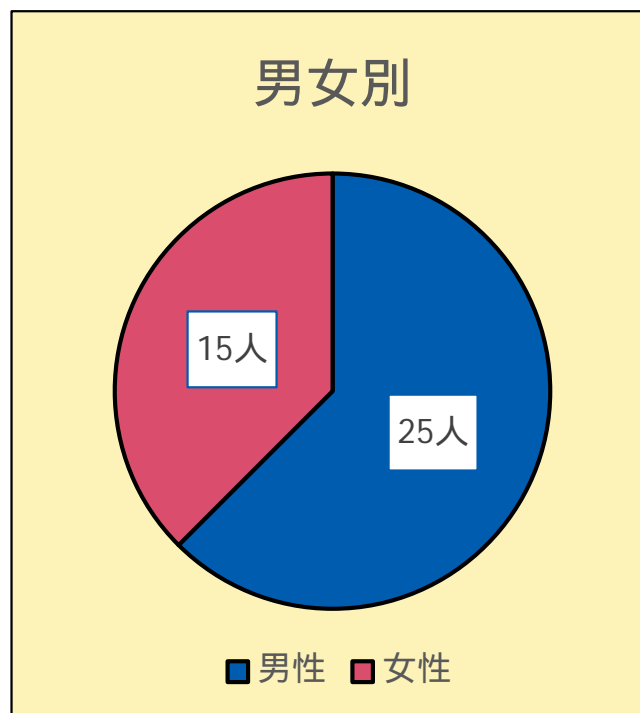
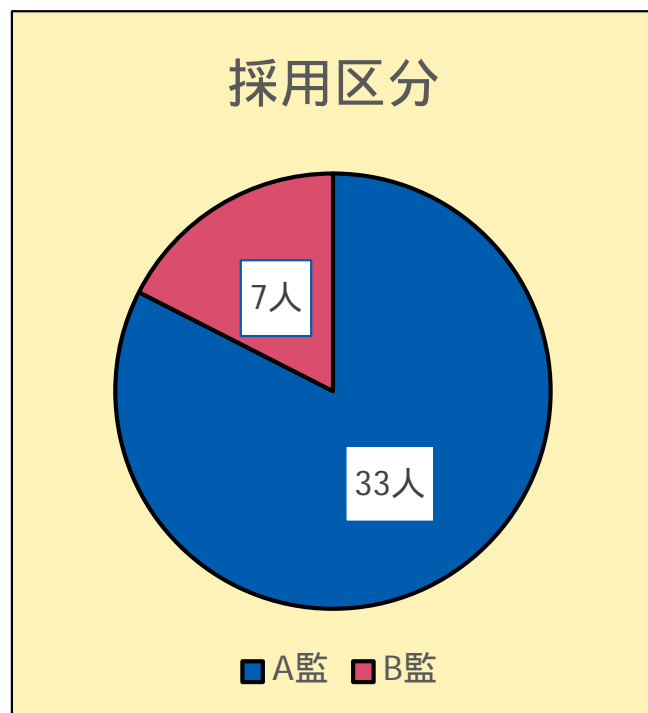
労働基準監督官の採用状況（新潟労働局）

新潟労働局では、令和元～8年度に計40名の労働基準監督官を採用しています。

R 1: 6名 / R 2: 5名 / R 3: 6名 / R 4: 6名 / R 5: 3名

R 6: 5名 / R 7: 4名 / R 8: 5名

試験区分、性別、出身地、学歴などによる有利・不利はありません。



2年目監督官からのコメント

令和7年度採用者に労働基準監督官になった感想を聞いてみました。

監督署では、相談対応や各種届出の受理、監督業務、司法業務等幅広く業務を行っています。監督や相談等を通じて労働者や使用者とコミュニケーションをとり、労働環境の改善が図れたときは達成感があります。

わからないことがあれば先輩や上司にその都度アドバイスをもらっています。部署に関わらず職員の皆さんに支えられアットホームな環境で日々業務を行っています。また、年次有給休暇の月1回以上の取得も推奨されているため、週末及び休暇時は趣味生活に専念することもできます。

実際に監督官になってみて、話す力よりも書く力の重要性を痛感致しました。書く力とは日々の業務の記録や事業主や労働者の方に示す文章のことになります。具体的には、私たちは業務を行った記録を現行の署内で共有するだけでなく、いつか同署内等で勤務する監督官のために記録を残す必要があります。実際に該当する業務を行っていない職員に対して、正確に当時の状況を伝えるために、その情景等がわかるような文章を書かなければいけません。また、事業主や労働者の方については、法令の知識を口頭で説明しても、多くの方は労働基準法等に精通しているわけではなく、時間が経過すれば忘れてしまうことが多いです。この時に、わかりにくい法令の知識を理解しやすい文章に置き換えて書き、いつでも見返せるように形として残したところ、いつでも見返せることにより労使双方の法令の理解が高まり、理解が高まったことにより順法意識も強くなることがわかりました。そのため、話す力が必要なことはさることながら、書く力も高い水準で求められているといった感想を抱きました。

監督署の勤務は、相談対応や監督業務、許認可、司法など多岐にわたります。その分、学ばなければならないことは多くありますが、研修や上司、先輩からの指導を通して、わかること、できることが増え、着実に自身の成長を感じます。

単純な知識だけではなく、コミュニケーション能力や説明力など、様々な能力が必要であり、様々な面で自分を成長させてくれます。また、上司、先輩に相談しやすい雰囲気であり、働きやすい環境だと感じています。

会社への監督指導業務が主な業務になります。いろいろな会社に訪問し、労務管理の状況や安全衛生管理の状況について調査を進めます。基本は一人で監督指導を行いますが、大規模な会社や難しい事案があるとチームで監督指導を行います。

何かわからないことがあれば上司や先輩方に聞きやすい環境が整っていますし、先輩方同士でも悩ましい事案についての相談が日常的に行われているため、風通しの良い職場だと思います。加えて、自分の裁量でスケジュールを組めることから、自分のタイミングで年次有給休暇を取りやすく公私ともに充実させることができます。

2年目監督官からのメッセージ

令和7年度採用者からの監督官試験に挑戦する方へのメッセージです。

この仕事には、専門的知識を駆使し、安全安心な労働環境の実現を図るという目的があります。専門的知識と聞くと、不安に思うかもしれませんが、研修制度をはじめ、職場の方々とコミュニケーションをとりながら業務を行うため、労働基準法などの法律について全く知識の無い方でも大歓迎です。また、労働だけでなく幅広い知識を必要とするため、前職が本職業と無関係に思えても、現在持っている知識は役に立ちます。専門的な面と多種多様な業務という矛盾した特徴を持ちあわせている職業ですが、成長したい人や何年経っても学び続けたい人、仕事に刺激が欲しい人にはぜひおすすめです。いつか一緒にお仕事ができることを楽しみにしております。

私は理系出身で、1年目の最初はとても不安でした。しかし、監督官は研修が豊富で、1年間の研修を通して、業務で必要なことを学ぶことができ、文理問わず、成長し活躍することができます。また、監督官だからこそできる経験や学べる知識が多くあり、やりがいを感じます。今、監督官を目指す皆さんとともに、働けるのを心待ちにしております。

監督官の魅力は、いいとこ取りできる所です。仕事で事業場に出向くことにより、会社様の長年築き上げてきた経営理念や経営体制等を即時に把握することが出来ます。この職業に就いて、事業場の数の多さに驚きましたし、一社一社個性があり、毎日飽きが来ていません。このような経験ができる職業は監督官以外になく、非常に魅力的な部分だと思っております。

是非、ご一緒にお仕事できる日を待ち詫びております。実際に、新潟労働局に入庁された際にはご挨拶させていただければ幸いです。

監督官は、様々な地域で様々な会社に赴き多くの人と関わる仕事です。山奥の建設現場から、まるで一つの町のような化学工場、有名なお菓子工場まで、働く人がいる現場には私たちがいます。また、監督官の業務は、賃金から労働時間などの労務管理から機械や化学物質などの安全衛生関係まで専門性は多岐にわたり、「知らないことを学びながら成長したい」「様々なものを見てみたい」という人にぴったりな仕事だと思います。熱意溢れる皆さんと同じ職場で働くことを楽しみにしています。

新潟労働局への問い合わせ

労働基準監督官の**採用**についてのお問い合わせは、
新潟労働局総務部総務課人事係 0 2 5 - 2 8 8 - 3 5 2 3
まで、ご連絡ください。

労働基準監督官の**業務**についてのお問い合わせは、
新潟労働局労働基準部監督課 0 2 5 - 2 8 8 - 3 5 0 3
まで、ご連絡ください。

【受付時間】 平日 午前8時30分～午後5時15分
(正午から午後1時は除く)

見学、ご質問、随時、受け付けています。
皆さんの挑戦、お待ちしております。